



先人をしのんで灯される

高鍋城灯籠まつり

懐かしく幻想的な灯籠の灯り

夕 闇が迫る頃、舞鶴公園を中心に城堀公園、高校グラウンドやまつりに行き交う沿道の灯籠にも火が灯り、辺り一帯幻想的な風景を醸し出します。

高鍋城灯籠まつりは、江戸時代の高鍋藩主で名君として知られた秋月種茂公をしのんで催されるもので、毎年十月に開催されます。プロローグとして、ふれ太鼓とともに高鍋神楽、鳴野棒踊りなどの伝統芸能が披露され、点灯式では儀式にのっとり、火打ち石での火起こしが厳かに行われます。その後、多くの来場者や子どもたちが競うように一万を超える灯籠に火を灯していきます。

夕闇がすっかり降りた頃にはすべて灯籠に火が灯り、辺り一帯がオレンジ色の灯りの帯となり、美しく幻想的な灯りのオブジェを作り出します。

山頂へと続く階段に設置された竹灯籠は、天まで届く天の川のようにもあら、あちこちで歓声が聞こえ、秋の夜の柔らかな灯りに心惹かれてか、いつまでも人の波が続きます。



日 向灘を見下ろす絶景地、持田古墳群と同じ高台に、神仏混合の石像七五〇体が林立しています。巨大なものは六メートルを超え、観音から地藏、神話に出てくる神様までさまざまです。ユニークな姿、表情をしており、訪れる人を和ませています。

地元では「おだいっさん」と親しまれている高鍋大師は、盗掘が後を絶たない古墳の霊を慰

めるために、精米所を営んでいた岩間保吉さんが小丸川の河原を作業場に、長い年月をかけてノミでコツコツ彫っていたと伝えられています。

現在は宮崎県の観光遺産に指定され、観光の名所となっています。

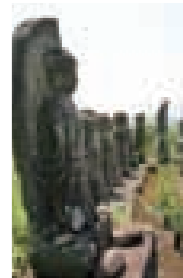


高鍋の観光

『宮崎県の観光遺産として』

高鍋大師

丘の上の不思議な空間。一日のんびりと――。



「たかなべ明倫観光ボランティアガイドの会」



高鍋の隠れた観光資源の発掘、観光ガイドを行っています！

この会は、高鍋町の歴史・文化、自然などを紹介し、観光事業の振興発展や会員相互の交流研鑽を図る目的で、平成二十一年八月に行政と共同で設立しました。現在の会員は十人です。観光ガイドのほか、町内における観光資源の発掘、歴史・文化、自然の学習、情報交換なども行っています。

町内を巡るバスツアーには、町内外から参加者があり、石井十次像から琴弾の松、大年神社、持田古墳群、高鍋大師、舞鶴公園、四季彩のむらなどの名所を巡ります。

ガイドの細やかな説明に、「分かった、分かった。高鍋の歴史や文化を改めて知った。また参加したい」などの感想が寄せられています。



物産展

広い駐車場を利用して、町の特産品やおいしい食べ物の屋台が並びます。ステージは昼から夜まで続き、楽しい催しものがいっぱい。おいしい食べ物と一緒に来場者の憩いの場となります。



点灯式

儀式にのっとり、火打ち石で火を起こします。煙が立ち、火が見えると、周りから静かな歓声が起こります。そして、この火は1万を超える灯籠のともしびとなります。



町民総踊り

たくさんの町民の皆さんが地区ごとに色あざやかな法被をまとい、高鍋音頭などを踊ります。振りがきれいで、つい一緒に踊りたくなるような楽しい踊りです。



秋月鼓童の勇壮な太鼓

点灯式で披露される伝統芸能の1つに、高鍋藩秋月家にちなんで結成された「舞鶴一座・秋月鼓童」による太鼓演奏があります。男女のメンバーによる力強いバチの音が城跡に響き、まつりを一層盛り上げてくれます。